

つくば常民大学 1月(第40回)

講師：安藤邦廣氏（筑波大学名誉教授・里山建築研究所主宰・日本茅葺き文化協会、日本板倉建築協会代表理事）

題目：「茅葺き民家と里山一草木の循環的利用と自然との共生」

日時：2025年1月16日（木）午後1時～3時半

場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料代

茅葺きは世界に普遍的な伝統建築技術で2020年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」のひとつとして登録された。日本の茅葺き民家を特色づけるのは屋根材の茅のほかに建築用材としての松で、その供給地は茅場と松林、里山でした。茅や松材の炭素吸収能力は絶大で、肥料としての再利用などその循環過程で豊かな土壌を形成、その後、高度経済成長下でのエネルギー革命、農業の近代化などに伴い茅葺き民家は消失の一途を辿りました。

今回は、日本の風土的建築ともいえる茅葺き民家の再評価、現代的意義を以下の構成でお話します。

- ① 民芸運動と民家の継承－「手仕事」の再評価・「民」の発見
- ② 戦後における民家の変容－エネルギー革命と生活改善
- ③ 民家の活用における地域文化の継承 災害復興と相互扶助
- ④ 環境技術としての茅葺き民家の継承 脱炭素社会と仮設住宅



茅葺きをトタンで覆った民家風景



茅屋根の差替え共同作業